

2020年度 特別研究推進費実績報告書

2021年 4月 19日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 文学部比較文化学科・教授
(氏名) 山口裕子

2020年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、
次のとおり報告します。

研究課題名	日本の外国人受け入れの現状、課題と可能性：地方の共生策と海外送り出し事情の総合的研究に向けて					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>本研究では、日本の外国人受け入れの課題と可能性を、国内の共生策と海外の送り出し事情を視野に、文献研究と、実地調査により考察することを当初の目的としていた。コロナ禍により、国際人口移動はもとより申請者自身の国内外の出張が厳しく制限される中で、調査方法を、主に文献研究に切り替え、海外調査についてはSNSなどを用いたインドネシア人送り出し機関関係者への聞き取りへと大幅に変更した。これまでの考察からは以下の諸点が見て取れている。</p> <p>日本の在留外国人のうち、とくに東南アジアからの技能実習生を巡っては、この一年間に注目すると、雇止めによる失業や失踪、家畜や果物の大量窃盗、妊娠を理由とする不当解雇などのニュースが頻繁にメディアでも取り上げられている。背景には、来日前から債務奴隷化している送り出しの仕組みや、外国人の現状把握ができていないなどの日本側の外国人受け入れ体制の構造的問題が存在している。また、外国人旅行客の来日数が激減していることが報じられている一方で、外国人の入国を全面停止した2021年1月以前の段階では、「特定技能1号」外国人を含むいわゆる労働力としての外国人の受け入れは継続していた。ここには、仲介業者が新たな外国人を入国をさせたほうが手数料を稼げるという事情が存在する。このように、コロナ禍において、従来指摘されてきた日本の外国人受け入れの課題が深刻かつ先鋭化する形で顕在化してきている。また、送り出し国の一つのインドネシア人の元技能実習生が運営する同胞リクルート機関の関係者への聞き取りによると、コロナ禍においても日本への渡航の希望者は途絶えないという。依然として途上国の特に低開発地域では日本の技能実習制度は出稼ぎの有力な選択肢となっていることが看取されている。</p>					
	合計	使用内訳 (単位：円)				
交付決定額	510,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	222,957	0	214,323	0	8,634	0
執行残額	287,043					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	なし					